

ハートフル塩山広報委員会

は〜とふる応援団



震災に想う

もし突然自分の家が跡形も無く、無くなっていたら…。どうなってしまうだろうか。

今回の震災を受けて「当たり前」「平凡」「平穩」…それがどれだけ幸せなことかわかった。家があるし、家族がいる、仕事がある、友達がいる…本当にありがたいと感じるようになった。

震災地に対する温かい言葉や取組みの中で、私たちも家族を大事にしながら、他の人達の為に少しでも役に立つ事をしていきたい。

直接何か出来るかどうかではなく、まずそういう気持ちを持ちたい。そして出来る事を一つ一つやっていきたい。

そう思う。

そういう行動を取る事だけは、迷わず続けていきたいと思う。

目次:

震災に想う	1
絵画とのかかわり 古屋晋さん	1
絵画とのかかわり 小宮山勝さん	2
エコポスター入選!	3
いま、わたしたちに できること!	3
ホットなボランティアさん 紹介	4
ホットな職員紹介	4

絵画とのかかわり♪(古屋晋さん)

ふるや すすむ



デイサービスをご利用している大正10年4月28日生まれ89歳の「古屋晋さん」は昔、絵で生計を立てていたそうです。「父親は画家であり兄も絵を描いていたし、私も描くことは嫌いではなかったのが自然に絵を描いていたよ」と話してくれました。50歳頃までは横浜の厚木でお店を出して、米軍基地の外人さんに戦闘機の絵や肖像画を描いて売っていたそうです。

その後、妻と一緒に山梨に引っ越して来てからも絵は描き続けていたため、甲州市(旧塩山市)から奥野田小学校の歴代校長の肖像画や、100歳以上のお年寄りの肖像画の依頼があったそうです。

また、他にも趣味があり、最近までラジコン飛行機を組み立て、完成後はその飛行機を大空に飛ばして楽しんでいたそうです。

自転車に乗って近所を散歩したり、絵のことや飛行機のことを話される古屋さんを、相田みつをさんの言葉をお借りすると「一生勉強 一生青春」ですね。

